



パプアニューギニア事務所
広報
JICA海外協力隊
「人」明日へのストーリー



創意工夫

ゼロから形をつくる

山縣 亮介 やまがた りょうすけ

派遣期間:2019/7/23~2021/7/22

任地:オロ州ポボンデッタ

配属先 :オロ州教育省
ベトルプライマリースクール

職 種:青少年活動
出 身:山口県周南市

プロフィール(応募動機含む)

元々、中学か高校の英語教師を目指していました。しかし、異文化理解の経験や、海外で働くこと、世界が抱える課題の解決に取り組む経験は英語教員としての幅を広げることにつながると思い、JICA海外協力隊に応募しました。そして、大学を卒業後、青少年活動隊員として派遣されました。



教会の牧師夫婦と(教会の感謝祭にて)

1. 配属先での活動概要

配属先ベトルプライマリースクールにて小学校3年生の児童、約50名を対象に、読み書き、計算能力向上を目的に主な言語で公用語である英語と算数の指導を担当しました。また、子どもの豊かな感性を育むため、情操教育の普及にも努めました。

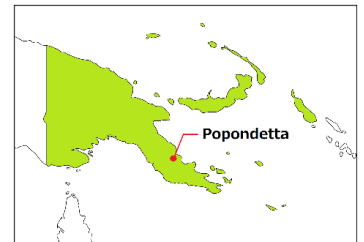


学校の外観

2. 任地での生活

～与え、与えられる、支えあいのコミュニティ

配属先ベトルプライマリースクールはユニテッドチャーチという教会が管理する学校です。平日は小学校で教え、週末は教会のイベントに参加したり、同じ家の2階に住む牧師夫婦と共にご飯をつくったりして過ごしていました。牧師夫婦はフルーツや魚をたくさん分けてくれたので、そのお返しに日本の料理をよく振舞いました。



クリスマスランチに作ったパプアニューギニアの伝統料理ムームー(肉や野菜の蒸し焼き)とサクサク(サゴヤシでんぶんの餅)

現地の人との交流のエピソード～現地の人と共に住み、働くことで生まれたつながり

パプアニューギニア(以下PNG)の人々は懐が広く、JICAボランティアの私たちを温かく受け入れてくれました。印象に残っているのは、2019年の独立記念日です。PNGには800を超える部族が存在しており、独立記念日には国中で祭りが開催され、そこでは様々な部族の伝統舞踊が見られます。



部族の衣装を着て祝った独立記念日

私は先輩隊員が働くセカンダリースクールの現地教員の誘いで、ある部族のグループに参加することになりました。グループには年長者から若者までいましたが、外国人の私たちを快く迎え入れてくれました。2週間の練習を経て臨んだ本番では、本来、首長クラスの人物が身につける華やかな衣装を特別に着させてもらい、たくさんの人が写真を撮って喜んでくれました。



先輩隊員と行った日本語教室

それ以来、いろいろな人から街で声をかけてもらえるようになりました。日本に興味を持ってくれる人々も多く、日本語を学びたい人のために、先輩隊員と日本語教室を開きました。

3. 配属先の課題と要望（ニーズ）

課題：児童の低学力（識字・計算能力） **ニーズ：児童の学力向上につながる授業の実践**

児童の読み書き、計算能力が低いことが課題です。読み書きについては、英語の語彙数が少なく、特にスペリングに間違いが多いです。計算能力については、数の理解がよくできていないため、二桁の足し算になるとミスが増えます。国定の教科書が行き渡っていないため、教科書は教師のみが持ち、児童は板書をノートに写すだけで授業が終わってしまい、問題を解く機会が少ないです。特に英語の授業では、教科書や本などの読み物がないため、学校に来て読む練習ができません。また、芸術（「音楽」と「図画工作」を合わせたような科目）や体育という科目は時間割上では存在しているものの、授業を行うための設備や材料、知識がなく、行われなことが多いです。



フォニックス指導の様子



算数の授業を受けるグレード3の児童の様子

4. 配属先での課題解決に向けての取組



（左）休み時間に25マス計算に取り組むグレード3の児童の様子

（右）2019年12月撮影芸術の時間に新聞紙でカブトをつくって喜ぶ男子児童

英語の読み書き力向上のため、語彙増強とスペリングに焦点を当てました。語彙増強では、絵辞書を使って様々な語彙を絵と共に紹介したり、学んだ語彙のリズムに乗せ覚えやすいよう工夫をしたりしました。スペリングは、フォニックスというつづり字と発音との間にある規則性を明示して、読み方を学ぶ指導をしました。学んだ知識が定着するよう歌にして何度も練習しました。計算力向上のため、リングや棒などの絵を見せ、数と具体物を結びつけられるよう指導しました。また毎授業の冒頭で25マス計算を行い、練習の機会を増やしました。芸術の授業では、身近な材料のできる折り紙や簡単な絵の描き方、限られたスペースでも行えるダンスを紹介しました。

PICK UP

一時帰国中、日本国内での取組

一時帰国中は主に2つの活動を行っています。

1つは国際協力出前講座です。県内の学校を訪れて、PNGの文化の紹介し魅力を伝えたり、JICAが果たす役割や世界が抱える課題について紹介したりしています。

2つ目は県内のひとり親家庭や就学援助受給家庭の中学生を対象とした学習支援です。彼らが高校に進学し、希望の持てる未来を掴むことができるよう勉強できる場を提供し、高校進学のための学習のサポートを行っています。

国際協力出前講座の様子



人生は思いがけない“きっかけ”の連続 その“きっかけ”を掴めるかどうかはそれまでの積み重ね次第。

地域のつながりを（協力隊OB会や母校）大切にしながら国内活動に取り組んでいます。



ひとり親/就学援助受給家庭の子どもの学習支援

5. 活動を通じて学んだこと、今後の抱負（将来の目標）

現地で活動できたのは8カ月という短い間ですが、多くのことを学ぶことができました。一番の収穫は教育の本質に気付くことができたことです。現地では、日本の教育現場に当たり前にある教科書や机、椅子などがあるとは限りません。今までそのような環境を経験したことのなかった私は、自分の無力さを痛感すると同時に、その環境下でも生徒の前に立って勉強を教える現地教員の姿をたくましく思いました。郷に入っては郷に従えと、身の回りにあるもので工夫して勉強を教える日々の中で「教える者と学ぶ者がいれば教育は成立する」という教育の本質を肌で感じることができました。



芸術の授業で絵を描くグレード3の児童

一言メモ：オロ州は、手つかずの自然も多く、世界最大の蝶、アレクサンドラトリバネアゲハの唯一の生息地です。